

INFORMATION AND KNOWLEDGE NEWS

情報知識学会ニューズレター
2001.7.1
58

情報知識学会事務局 発行 〒110-8560 東京都台東区台東1-5-1 凸版印刷(株)内
TEL: 03-3835-5692 FAX: 03-3837-0368 E-mail: LDE01013@nifty.ne.jp

ISSN 0915 1133

目 次

[巻頭言] 総会挨拶	(藤原鎮男)	1
[報 告] 部会・月例懇話会／平成13年度計画		
a. 人文・社会科学系部会	(神立孝一)	3
b. 専門用語研究部会	(戸塚隆哉)	3
c. 月例懇話会	(平田 周)	4
[書 評]	(細野公男)	4
[報 告] 平成13年度総会議事録および総会資料		5
[お知らせ] 第6回 SGML/XML 研修フォーラム		11
[お知らせ] (社) 情報科学技術協会主催：第33回夏季特別セミナー		12

[巻頭言]

総 会 挨 拶

会長 藤原鎮男

謝辞

研究報告会が無事、盛会裡に終わりました。報告者、座長各位に対し、また、活発な質疑討論で各報告の意義を高められた参会の諸氏に衷心よりお礼申し上げます。さらにプログラム作成を始め会場の設定万般にお骨折り下さった菅原委員長はじめ委員各位にもその御努力にお礼申し上げる次第です。

学会の現状

つぎに学会の現状について会長として御報告申し上げます。個々の詳細は担当理事から御報告する予定ですが、簡単に概況を述べれば、諸事順調に予定通り進行したと申し上げることができます。例えば、学会として最重要な会誌発行が、規則正しく刊行される実績が確立し、また、専門用語研究会会員の分を別にして、会員の新規入会の傾向が顕著であること、さらに、会の財務の健全化が実現したことが上げられます。まことに欣快のことであり、理事各位、事務局の労を多とするものであります。

さらに、平成12年度事業として特記すべきことは、数年来、懸案であった専門用語研究会の合併が実現したことであります。これは、本学会創立の時点から、用語研究が情報知識学の原点であると、その重要性が認識されて来たことを考えれば、本学会の強化として慶賀すべきことであり、用語研究のいっそうの進展を期待する次第であります。

昨年度の総会において私は、次年度は学会運営の整備を図りたいと申しました。その一端として今年度の役員選考には全会員の投票を願い、会員の総意による理事会の成立を期する形を整

えることが出来ました。この考えを基調とする会の運営を今後はいっそう努力したいと考えます。

展開／将来計画

平成13年度において私どもは、学会のいっそうの発展を期して活動を進める所存であります。具体的な項目の詳細は後刻ご意見を仰ぐこととなりますが、ここで二三、眼目とする事項について申し上げます。その第一は、

(1) 論文誌の充実であります。会員各位からの活発な研究成果の発表を期待したいと思います。第二は、

(2) 時代の動きに対応した学会活動の展開であり、具体的にはXML関連事業の新企画であります。我々は、従来からこの面で先駆的な活動実績を持ち、今後も従来通り、その線での活動の継続を期するわけではありますが、ここで特に申し上げたいことは、昨年来、XMLコンソシアムの立ち上がりなど、社会の関心がようやく高まる形勢になりましたので、本学会もそれに適切に対応すべきであると思うことであります。すなわち、時代は、専門家集団内のことであったのが、一般社会の問題に転位しつつあることを痛感させるのであり、本学会としても、この状況に対応して、現在、理事会内のSGML/XML研修フォーラム実行委員会は、社会教育を視野において、本年度のSGML/XML研修フォーラムの副題として、「電子政府と市民生活を考える」の題目を掲げ、社会技術としてのXMLの意義の普及を推進したいと考えております。第三は、

(3) 会員増強であります。これには学会案内の整備などいくつかの努力項目があげられますが、とくに申し上げたいのは、理事会内で、新会員獲得のお骨折りに対し褒賞措置の具体案を作成中であるということであり、すでに、具体化したものもあります。これも含め、会員諸賢からも積極的なお智恵を頂きたいと考えます。

以上簡単に会長として本会の現状ならびに将来像について申し上げました。今後とも会員各位のいっそうの御支援御協力を願う次第であります。

<編集部注>

これは去る5月19日に開催された、情報知識学会平成13年度総会における冒頭の議長挨拶を収録したものです。

【お知らせ】

入会勧誘について

情報知識学会事務局

情報知識学会は大勢の方々の入会を歓迎します。どうぞ、お知り合いやお近くのかたをご紹介ください。郵便番号・住所・氏名を事務局へお知らせくだされば、入会申込書・案内パンフレット・学会誌またはニューズレターの見本を郵送します。あるいは、ご紹介者から直接手渡しして頂いても結構です。

1. 情報知識学会会員の紹介で入会するかたには、入会金を免除します。
2. 入会者をご紹介くださった会員は、年会費が紹介1件につき4千円減額されます。

ただし、平成13年4月から平成15年3月までの入会に限ります。

[報 告]

部会・月例懇話会／平成13年度計画

a. 人文・社会科学系部会

神立孝一（創価大学）

人文・社会科学系部会では、これまでも年に3回程度「歴史研究と電算機利用ワークショップ」を開催して参りました。ここでは、人文社会分野におけるコンピュータの利用について、何人かの方々にご報告をいただき、それに基づき議論をする、という形態でおこなってまいりました。テーマは、漢字の処理、HTML関連、データベースの構築等々幅広いものです。また、他の研究会との共催でも何度か開催してまいりました。とすると、人文社会の研究者はコンピュータ、なかんづく、パソコンを利用する研究に違和感を唱え、その利用を忌避する場合があります。そうした誤謬を解くためにも、このワークショップを継続して開催していく予定です。本年も、7月14日に法政大学において、第16回「歴史研究と電算機利用ワークショップ」が開催されます。その後も、2～3回程度、このワークショップをおこなっていく予定であります。人文・社会学関係の研究者のみならず、多くの方々にご参加いただければ、これに過ぎたる喜びはございません。何卒よろしくお願いいたします。

b. 専門用語研究部会

戸塚隆哉（(株) ジー・サーチ）

当部会は、昨2000年、専門用語研究会と情報知識学会との合併によって、専門用語研究部会として発足しました。昨年度における活動としては、2000年11月11日開催のシンポジウム（報告記事は、学会誌 Vol.11 No1 の35-37 ページ参照）のみでしたが、今年度は、下記のような活動を予定しています。

1. 「第14回専門用語シンポジウム」の開催

主題：東アジアにおける専門用語ネットワーク、とくに東アジアにおける多言語専門辞書の構築

発表 内外招へい者による講演を予定

期日 2001年11月17日（土）9:00-17:00

会場 オリピック記念代々木青少年センター

出席者 会員および関係者など関心ある方々の出席を広く求める

2. EAFTerm の開催

専門用語研究は、従来ヨーロッパ諸国で積極的に行われてきました。1990年代に入り、東アジア地域、特にわが国、中国、韓国など母国語で漢字を用いる国においても積極的な研究・開発が行われつつあります。1997年には、これらの国の専門用語研究の整合を図ることを目的とする研究団体として、モンゴルなどを含め、EAFTerm(East Asia Forum on Terminology) が組織され、第1回の会議が中国で開催されました。

この団体は、日本、韓国、中国、モンゴルをメンバーとし、北京に事務局が置かれています。各国の窓口は、用語行政をあずかる政府機関ですが、日本には該当する政府機関が存在しないため、専門用語研究部会が窓口となっています。結成以来、各国持ち回りで会合をもつことになっており、第1回中国（北京 1997-10-04）、第2回韓国（大田 1998-12-4/5）、第3回モンゴ

ル(ウランパートル 2000-11-30/12-01)で開催され、第4回は日本で開催することになっています。開催時期は、前項シンポジウムの前日 11 月 16 日(金)を予定しています。

3. 専門用語研究特集号の企画

専門用語研究会時代に、「専門用語研究」を第 19 号まで刊行しましたが、当学会との合併にともない、「情報知識学会誌」の 1 号を特集号として 2002 年 4 月に刊行する予定です。

c. 月例懇話会

平田 周(株)IT経営研究所)

一昨秋より始めた月例懇話会は、理事の方々のご協力もあり、次第に盛りあがりをみせている。毎月第 1 火曜日午後 6 時半より、世界貿易センタークラブ(東京・浜松町)で開催。今年度は、8 月、12 月、1 月を除いて、開催する予定である。日頃、情報知識学会では、会員同士が顔を合わせるといふ機会は少なく、深い見識をお持ちの諸先生方や専門家と親しく話ができるチャンスはかけがえのないものと思う。ぜひ多くの人たちが出席されて、この絶好の機会を役立てられることを望んでいる。広範な領域にわたる情報・知識学の分野で、どのような問題が研究テーマになりうるか、どのような研究方法があるかなどに、主眼を置いて、講師の人に話を願っている。

【書 評】

研究評価

研究者・研究機関・大学におけるガイドライン

根岸正光, 山崎茂明 編著

丸善, 2001 年. 204p. 2400 円(税別)

細野公男(慶應義塾大学)

「引用」と呼ばれる行為・現象は、学術情報の伝達・検索・評価に大きな影響を及ぼす。そのためこうした行為・現象は、研究のみならずビジネスの対象となっており、また ISI の引用索引など種々のメディアも開発されている。

本書は「引用」を研究評価の側面から捉えたもので、ビブリオメトリックス、評価指標としての論文生産数、論文生産数の国際比較、インパクト・ファクター、わが国における大学の論文生産・引用数と学会誌の引用索引データベース、学術データベース、レフェリー・システムが取り上げられている。さらに、大学別および分野別の論文数と引用数、高引用度論文一覧を示した 40 頁にわたる詳細な付表が巻末に付けられている。

近年大学改革が大きな課題となっており、自己点検・評価、学術研究の生産性がいろいろ論議されている。また、行政改革の一環として設けられる独立行政法人制度の国立大学等への拡大適用の流れも、強くなりつつあるように見える。

このような環境に適切に対応するためには、大学における評価の問題を本書に示された観点から検討することが重要である。そうした意味で本書は、高等教育行政および大学で人事管理や研究に携わる関係者にとって、貴重な情報を提供する資料であるといえる。

情報知識学会／平成13年度総会議事録

1. 開催日 平成13年5月19日（土）17:35～18:00
2. 会場 学術総合センター2階中会議場（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2）
3. 議長 藤原鎮男会長、司会進行 根岸副会長
4. 議事
 - (1) 総会有効成立確認：事務局長
 総会出席者 19 名、他に委任状 114 通の提出を受け、計 133 名。
 依って定足数（正会員の 10 分の 1）を満たし、総会成立。
 - (2) 議長挨拶：藤原鎮男会長（本ニューズレター巻頭言に掲載）
 - (3) 役員改選の件：藤原鎮男会長
 - (4) 平成12年度事業報告：藤原副会長
 - (5) 平成12年度決算報告：細野副会長
 - (6) 平成12年度監査報告：月見里監事
 - (7) 平成13年度事業計画説明：藤原副会長
 - (8) 平成13年度予算説明：細野副会長
 - (9) その他（会員からの意見）
 - a. 会議の開催法、監査報告などにインターネットの活用を考えられたい。
 - b. 学会誌投稿論文の査読方針・ルール、査読基準、査読回答フォーマットなどを明示して欲しい。

上記の報告および役員・事業計画・予算は、原案（総会資料）通り承認された。

平成13年度総会資料

資料1. 会員数

	平成12年3月 31日現在	平成12年度 入会	平成12年度 退会	平成13年3月 31日現在
正会員	305名	74	46	333名
学生会員	12名	6	4	14名
賛助会員 ()は口数	16法人 (52)	9 (13)	3 (9)	22法人 (56)
合計	333	89	53	369

資料2. 平成12年度事業報告

(1) 会議

- ・平成12年 5月12日 17:30～20:00 理事会 於：凸版印刷㈱
- ・平成12年 5月27日 17:30～18:10 総会 於：凸版印刷㈱
- ・平成12年 8月24日 17:30～20:00 理事会 於：凸版印刷㈱
- ・平成12年11月22日 17:30～20:00 理事会 於：凸版印刷㈱
- ・平成13年 3月22日 17:30～20:00 理事会 於：凸版印刷㈱

(2) 講演会・セミナー・シンポジウム等

- ・「第13回歴史研究と電算機利用ワークショップ」人文・社会科学系部会主催
於：法政大学 平成12年5月13日
- ・「情報知識学会／第8回（2000年度）研究報告会」主催 於：凸版印刷㈱
平成12年5月27日
- ・「コンピューター・ビジュアライゼーション・コンテスト」後援 於：恵比寿ガーデン
平成12年6月23日 （主催：㈱日経サイエンス）
- ・「第14回歴史研究と電算機利用ワークショップ」人文・社会科学系部会主催
於：法政大学 平成12年9月9日
- ・「第5回SGML／XML研修フォーラム」主催 於：グランドヒル市ヶ谷
平成12年10月25～26日
- ・「第13回専門用語シンポジウム」専門用語研究部会主催 於：慶應義塾大学
平成12年11月11日
- ・「人文科学とコンピュータシンポジウム」後援 於：立命館大学
平成12年12月15日 （主催：(社)情報処理学会）
- ・「情報学シンポジウム」共催 於：日本学術会議講堂
平成13年1月18～19日 （主催：日本学術会議）
- ・PAGE2001 併催セミナー「SGML／XMLの最新動向」主催 於：池袋サンシャインシティ
平成13年2月7日 （主催：(社)日本印刷技術協会）
- ・講演会「ゲノムを知る」主催 於：慶應義塾大学
平成13年3月24日
- ・「第15回歴史研究と電算機利用ワークショップ」人文・社会科学系部会主催
於：明星大学 平成13年3月24日

(3) 月例懇話会（月例研究会改め）

於：世界貿易センタークラブ

- ・第6回～第13回（4/25,5/23,6/27,9/26,10/24,11/28,2/6,3/6）

(4) 刊行物

- | | |
|-----------------------------|---------------|
| ・情報知識学会誌10巻1号 | 平成12年 4月28日発行 |
| ・第8回（2000年度）研究報告会講演論文集 | 平成12年 5月27日発行 |
| ・ニューズレター56号 | 平成12年 7月 1日発行 |
| ・情報知識学会誌10巻2号 | 平成12年 7月31日発行 |
| ・情報知識学会誌10巻3号（SGML/XML 特別号） | 平成12年10月25日発行 |
| ・ニューズレター57号 | 平成12年12月 1日発行 |
| ・情報知識学会誌10巻4号 | 平成13年 1月31日発行 |

資料 3. 平成 12 年度決算書 (単位: 円)

[収入の部]

科 目	収入予算額	収入実績額	収入差異
前年度繰越金	1,747,290	1,747,290	0
会費収入 (個人)	2,500,000	3,055,300	555,300
会費収入 (法人)	1,560,000	1,620,000	60,000
学会誌別刷代	100,000	60,000	-40,000
講演論文集代	100,000	81,000	-19,000
雑収入	91,710	86,241	-5,469
事業収入	1,900,000	1,596,080	-303,920
利息	1,000	1,603	603
合 計	8,000,000	8,247,514	247,514

[支出の部]

部 門	科 目	支出予算	支出実績	差 異
ニューズレター編集部門	印刷代・送料	500,000	291,374	208,626
	編集経費等	50,000	0	50,000
学会誌編集部門	印刷代・送料	1,800,000	1,801,662	-1,662
	編集経費等	50,000	116,000	-66,000
	原稿料	0	0	0
企画部門	セミナー備品等	500,000	382,325	117,675
	講師謝礼等	500,000	320,000	180,000
研究報告会	講演論文集印刷代	250,000	270,900	-20,900
	親睦会経費	0	0	0
総務部門	入会案内作成費	100,000	0	100,000
	理事会実施費用	120,000	126,150	-6,150
事務局・その他	事務用品代	500,000	417,999	82,001
	通信費・送料	200,000	256,627	-56,627
	印刷代 (封筒等)	100,000	123,375	-23,375
	振込手数料	10,000	5,880	4,120
	総会実施経費	20,000	22,000	-2,000
	業務委託費	1,800,000	1,950,000	-150,000
	交通費その他	600,000	659,901	-59,901
事務局機構拡充積立金		400,000	400,000	0
予備費/次年度繰越金		500,000	1,103,321	-603,321
合 計		8,000,000	8,247,514	-247,514

〔貸借対照表〕

平成13年3月31日：現在（単位：円）

科 目	借 方	貸 方	備 考
1. 資産の部			
現金	0		
普通預金（三和銀行）	1,317,711		
定期預金（三和銀行）	1,000,000		
郵便振替口座	709,610		
定額郵便貯金	1,000,000		
2. 負債の部			
前受金		124,000	平成13年度年会費
未払費用		0	
3. 特別会計			
事務局機構拡充積立金		2,800,000	
4. 正味財産			
（内当期正味財産増加額）		1,103,321 (▲ 643,969)	
合 計	4,027,321	4,027,321	

資料4. 監査報告書

監査報告書

情報知識学会

会長 藤原鎮男 殿

作成日 平成13年5月15日

情報知識学会 監事 宋戸駿太郎

情報知識学会 監事 月見里禮次郎



当監事は、情報知識学会定款第19条に基づく監査証明を行うため、情報知識学会の平成12年4月1日から平成13年3月31日までの財務諸表について、監査を行いました。この監査に当たって、当監事は一般に公正妥当と認められる監査基準に準拠し、通常実施すべき監査手続きを実施致しました。

監査の結果、当監事は上記財務諸表が平成13年3月31日現在の情報知識学会の財務状況を適正に表示しているものと認めます。

資料 5. 平成 13 年度事業計画

- (1) 会 議
 - ・ 総会 平成 13 年 5 月 19 日開催
 - ・ 理事会 年 4 回開催
- (2) 講演会・シンポジウム
 - ・ 第 9 回研究報告会開催 (2001.5.19) (菅原理事)
 - ・ 第 6 回 SGML/XML 研修フォーラム (根岸副会長)
 - ・ 月例懇話会
 (4,6,7,9,10,11,2,3 月 第 1 火曜日) (平田理事)
- (3) 部 会
 - ・ 知的財産 (名和理事)、電子管理システム (根岸副会長)、
 - ・ CODATA (岩田理事)、人文・社会科学系 (神立理事)
 - ・ 専門用語研究 (藤原議副会長)。
- (4) 刊行物
 - ・ 学会誌 第 11 巻 1～4 号 (後藤編集委員長)
 - ・ ニュースレター 58～59 号 (事務局)
- (5) 広報活動
 - ・ 情報知識学会案内パンフレット改訂版 (平田理事)
 - ・ 情報知識学会ホームページ (後藤編集委員長)

資料 6. 平成 13 年度予算 (単位: 円)

[収入の部]

科 目	H12年度予算	H13年度予算	差 異
前年度繰越金	1,747,290	1,103,321	-643,969
会費収入 (個人)	2,500,000	2,720,000	220,000
会費収入 (法人)	1,560,000	1,680,000	120,000
学会誌別刷代	100,000	100,000	0
講演論文集代	100,000	100,000	0
雑収入	91,710	295,679	203,969
事業収入	1,900,000	2,000,000	100,000
利息	1,000	1,000	0
合 計	8,000,000	8,000,000	0

〔支出の部〕

部 門	科 目	H12年度予算	H13年度予算	差 異
ニュース・レター編集部門	印刷代・送料	500,000	300,000	-200,000
	編集経費等	50,000	50,000	0
学会誌編集部門	印刷代・送料	1,800,000	1,800,000	0
	編集経費等	50,000	300,000	250,000
	電子化調査	0	100,000	100,000
企画部門	セミナー備品等	500,000	400,000	-100,000
	講師謝礼等	500,000	400,000	-100,000
研究報告会	講演論文集印刷代	250,000	300,000	50,000
	親睦会経費	0	0	0
総務部門	入会案内作成費	100,000	100,000	0
	理事会実施費用	120,000	120,000	0
事務局・その他	事務用品代	500,000	200,000	-300,000
	通信費・送料	200,000	300,000	100,000
	印刷代（封筒等）	100,000	100,000	0
	振込手数料	10,000	10,000	0
	総会実施経費	20,000	20,000	0
	業務委託費	1,800,000	1,800,000	0
	交通費その他	600,000	700,000	100,000
事務局機構拡充積立金		400,000	400,000	0
予備費		500,000	600,000	100,000
合 計		8,000,000	8,000,000	0

資料 7. 役員人事

〔理事 〕（五十音順・敬称略）

有川節夫（九州大学）、石川徹也（図書館情報大学）、石塚英弘（図書館情報大学）、岩田修一（東京大学）、岩渕幸雄（日本創造学会理事）、太田泰弘（文教大学）、神立孝一（創価大学）、菊田昌弘（シグマ・インキュベート）、国沢 隆（東京理科大学）、後藤智範（神奈川大学）、小山照夫（国立情報学研究所）、菅原秀明（国立遺伝学研究所）、高橋靖明（凸版印刷）、田畑孝一（図書館情報大学）、中川 優（和歌山大学）、長瀬真理（静岡大学）、名和小太郎（国際大学グローコム）、西脇二一（奈良大学）、平田 周（IT経営研究所）、福室淳宏（大日本印刷）、藤原鎮男（東大名誉教授）、藤原 譲（工業所有権総合情報館）、細野公男（慶應義塾大学）、松田純一（日立製作所）、安永尚志（国文学研究資料館）、根岸正光（国立情報学研究所）。計 26 名。

〔監事 〕（五十音順・敬称略）

宋戸駿太郎（筑波大名誉教授）、月見里礼次郎（えんがわ代表）。計 2 名

【お知らせ】

第6回 SGML/XML 研修フォーラム 「電子政府と市民生活を考える」

【開催趣旨】

わが国における「情報化」の歴史は古いが、長引く不況の中、その原因のひとつとしていわゆる IT での立ち後れが指摘され、その克服を目途として、政府自ら「電子政府」さらには「e ジャパン」といった標語を掲げて、IT の推進を図るに至っている。こうした状況下、XML は、情報流通、情報共有のための基軸的方式としていよいよ注目され、その実用化も進んできた。しかし、その急速な展開中で、XML の本質的機能あるいは核心的部分が見失われがちになっていることも事実であろう。

情報知識学会では、社会における情報交換の基本的手段である文書の電子化に注目し、これに関わる基本技術である SGML について、フォーラムを開催して早期から検討を重ねてきた。その後、XML の提案を受けて、名称を「SGML/XML フォーラム」とし、今般その第6回を、「電子政府と市民生活」を基本的テーマに掲げて開催することにした。

前記のように XML の普及、浸透に期待が集まる中で、その幅広い応用分野に対応して、情報通信技術、経営情報システムあるいは行政電子化等々、種々の観点から、関連の業界団体等において XML 対応の研究、検討が進められつつある。第6回フォーラムでは、こうした XML 関連団体での関心テーマと検討状況について紹介し、それらの全体像を明らかにすることにより、わが国における XML 応用の現況が把握できるよう、プログラムの編成を行う。また、民間での実用化事例、行政側の動向なども紹介する。フォーラム全体として、参加者・講演者間での活発な意見交換を喚起することにより、今後わが国における XML の方向性を提示するものとする。

【概 要】

開催日：平成13年10月29日（月）～30日（火）の2日間 9:30～16:30

会 場：グラントヒル市ヶ谷（東京・市ヶ谷駅より徒歩3分）

定 員：100名

参加費：一般 28,000 円（入会申込者は今年度年会費込み 20,000 円）、
リピーター 18,000 円、地方自治体 18,000 円、協賛団体会員 18,000 円、
情報知識学会正会員・法人会員とも 14,000 円、
一般学生 5,000 円（入会申込者は今年度年会費込み 4,000 円）
情報知識学会学生会員 2,500 円。

協賛団体：約20団体、現在交渉中。

プログラム：本年9月頃、ホームページに掲示。希望者へはFAX送信。

<http://angelos.info.kanagawa-u.ac.jp/jsik/main.html>

申し込み：いつでも可。

郵便番号、住所、氏名、電話、FAX、E-mail、参加費金額を
情報知識学会事務局へE-mail、FAXまたは郵送で連絡。
折り返し本年9月以降に入場証と案内状を郵送します。

E-mail:LDE01013@nifty.ne.jp FAX:03-3837-0368

【紹 介】

今年で第6回を迎えますが、毎回好評で情報知識学会会員も多数参加されています。お知り合いの方にも伝え、大勢でご参加ください。情報知識学会会員の紹介で参加申込みをされる方は、参加費 28,000 円を 18,000 円に引き下げます。参加申込書に紹介者（会員）のお名前をご記入ください。

【お知らせ】

(社) 情報科学技術協会主催：第 33 回夏季特別セミナー 『情報サービスの革新を目指して』 ～ユーザビリティの向上と評価～

日時：2001 年 8 月 31 日（金）10:00～19:00

内容：セミナーの前半は総論として、情報デザインコンサルタントの篠原稔和（シノハラ トシカズ）氏から、情報デザインとユーザビリティについてお話しいただきます。セミナーの後半は、前半のお話しを受け、「外部情報サービスの利用と評価」、「内部情報サービス部門のマネージメントと評価」の 2 グループに分かれて、話し合ってください。詳細は URL：<http://www.infosta.or.jp/>をご覧ください。

定員：40 名（申込み先着順）

会費：INFOSTA 会員 12,600 円 非会員 15,750 円（消費税を含む）

会場：京都・嵐山 コミュニティ嵯峨野

URL <http://www.pref.kyoto.jp/shisetsu/s030/s030.html>

JR 京都駅から JR 嵯峨野線に乗り、嵯峨嵐山駅下車スグ。（京都駅から約 20 分）

主催：社団法人 情報科学技術協会（INFOSTA）

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-5-7（佐佐木ビル）

Tel：03-3813-3791 Fax：03-3813-3793

e-mail：infosta@infosta.or.jp URL：<http://www.infosta.or.jp/>

■編集後記

21 世紀最初のニューズレターをお届けします。21 世紀になって半年を過ぎたものの、未来の話をするときはいついつい「21 世紀には…」と言ってしまいます。もう 21 世紀になってるんだったと思い直してみても、いまだに 21 世紀は遠い未来という感じがします。何年かしたら「22 世紀には…」というフレーズが誕生するのでしょうか。

外は雨です。こういうときには鰻でも食べてぐいっとビールでも飲みたいですね。おいしいものを食べれば元気になるというのは 21 世紀でも 22 世紀でも変わらないことでしょう。

ニューズレター編集委員 宇陀 則彦

■年会費納入について

1. ご自分が年会費を納入した年月日を確認してください。

このニューズレターをお届けした封筒に張ってる宛名ラベルを見てください。

最下行に納入年（西暦下 2 桁）、月（2 桁）、日（2 桁）を印字してあります。

2. 「未納」と印字してある場合。

次の何れかの方法で納入してください。

1 年分の年会費は、正会員 8 千円、学生会員 4 千円です。

・郵便振替口座 00150-8-706543 情報知識学会（代表 藤原鎮男）

・三和銀行秋葉原東口支店 普通預金 3606590 情報知識学会（会長 藤原鎮男）

■複写をされる方に

[R] <学協会著作権協議会委託>

日本国内における、当ニューズレターからの複写許諾は、学協会著作権協議会から得てください。

学協会著作権協議会

〒107-0052 東京都港区赤坂 9-6-41

TEL:03-3475-5618, FAX:03-3475-5619

アメリカ合衆国における複写については、Copyright Clearance Center, Inc. から得てください。

Copyright Clearance Center, Inc.

222 Rosewood Drive, Danvers, MA. 01923, USA

TEL: 978-750-8400, FAX: 978-750-4744